



パーソルワークスデザイン株式会社
人事ソリューション本部 ヘルスケア企画部
部長 長野和洋
(日向市ワークেশョン共創アドバイザー)

日向市
商工観光部 商工港湾課
係長 新玉様

「企業誘致」「移住施策」の更なる推進へ “ワークেশョン” に着手
延べ1,100名の方が訪れ、満足度は95%に！

Before

- 日向市に足を運ぶ「関係人口」を増やしていきたい
- 通過点ではなく、日向市に足を止めて魅力を知ってもらいたい
- 展示会に出展するだけでは企業誘致も難しい

After

- 80社、延べ1,100名の方に足を運んでもらえることに
- 満足度も高く、「また来たい」と答えた人は90%
- 県外の企業がシェアオフィスに登録をする事例も出てきた

組織概要

官公庁（地方自治体）



日向市（ひゅうがし）は、宮崎県の北東部に位置しており、温暖な気候と美しい山々、黒潮踊る太平洋など、雄大な自然が感じられる市です。
日向灘に面して温暖な気候であり、日照時間は全国トップクラス。古くから宮崎県のゲートウェイとしての役割も担っています。豊かな自然を活かしたレジャーの中でもマリンスポーツ、とりわけサーフィンは多くの方が季節を問わず訪れて楽しんでいます。

1. 導入前の課題

「企業誘致」「移住施策」「観光」に共通する課題も多い



日向市では、「人口の緩やかな減少」という課題があり、以前より「移住施策」として『サーフィンによるまちづくり』に取り組んできました。

総務省が示す『交流人口』と『定住人口』のちょうど中間に位置づけられるのが『関係人口』です。その『関係人口』を増やすためにも、まずは**入り口として“ワークেশョン”に取り組むと良いのでは**、と考えていました。

新玉様：都市部で開催される『企業立地フェア』などの展示会などにいきなり行って、ブースでPRをしても、**名前も知らない自治体にいきなり進出しようとは思わないはず**です。ですから、まずはライトな形で実際に足を運んでもらって、『ここ、いいね』と感じてもらう必要があると思いました。

さらに、日向市の「観光」としての課題もあったようです。「少しだけ観光して次の目的地へ」という印象が強く、「**ワークেশョンで実際に滞在してもらって、観光もしてもらう**」という**課題解決のアプローチ**も考えていたようです。

時を同じくして、パーソルワークスデザインでも『時間と場所を自由に選択できるはたらきかたの実現』を目指して、全国にワークেশョンオフィスを展開していく事業が立ち上がりました。以前より宮崎県に拠点を構えていることもあり、「海岸沿いのオフィスでサーフィンをしながら仕事ができる場所」という観点から、日向市にアプローチしようと考えていました。

そうして2019年5月、初めて日向市にお邪魔し、「**ワークেশョン**」の**事業が日向市様の抱えている課題にもマッチ**していることを確認させていただきました。

2. 取り組み内容

3年がかりで「ワーケーション」を実装し、徐々に変化が

日向市様で予算化されたのは、2020年の6月。既にコロナ禍が始まっていたタイミングでした。いみじくもワーケーションのスタートとしては追い風になっていました。

新玉様：スタートしたものの、『こんな田舎にニーズはあるのかな……』という不安を感じつつ動き出していった、というのが正直なところでした。

そのため、初年度からいきなりハードを整備していくような流れではなく、都市部から離れた環境で仕事をしたいと思うニーズがあるのか、まずは12名の実証実験から始めました。

新玉様：まず、反響の大きさには率直に驚きました。それに、アンケートの中で『日向の人がとても良かった』というコメントをたくさんいただいて、手ごたえを感じましたね。

実際、次の2年目には予算が大幅に増額となるなど、日向市様の

内部的にも期待が強まっていったようでした。また、全国的に見て“先行事例”ということもあり、メディアで取り上げられることも多く、「広告宣伝」の効果もありました。

パーソルワークスデザインとしても2年目にサービスの拡充を図っていきましたが、コロナ禍が今度は向かい風となってしまいました。相次ぐ「緊急事態宣言」により外出が自粛され、苦戦を強いられる1年となってしまったのです。

新玉様：3年目からは、単なるブームとしてのワーケーションで終わらせず、『はたらき方』というところまで昇華した、“ひとつ先に進んだ形”を目指したいなと考えていました。

実際、地元の人たちもパーソルワークスデザインとのコミュニケーションが深くなっており、3年目はそういった地元の方々にも“自分事”としてワーケーションに携わってもらおうというのが、日向市様としてのテーマになっていたようです。

3. 導入の効果

80社、述べ1,100名に足を運んでいただき、満足度も95%を達成

もともと日向市様との委託・受託の関係は3年でした。4年目以降は自分達で事業を確立することを目標とされていました。

3年間の参加者の実績は、延べ1,100名に上りました。2021年度は240名でしたが、**2022年度には約3倍の727名**となったのです。

また、来ていただいた方へのアンケート結果を集計してみても**満足度は95%に上り、「また来たいと思いますか？」という質問には「はい」が90%**という数字になりました。観光の場合には「次は別の場所へ行ってみよう」となりがちですが、ワーケーション事業であるため「再訪していただけるかどうか」を重要ポイントとして考えていたのです。

また、宮崎県日向市として“知名度が向上している”点も肌で感じるが多かったようです。

新玉様：ワーケーションに関するイベントに登壇をする機会も増えたのですが、『宮崎県日向市です』と言った時点で分かってもらえるんです。以前なら、“日向市”の読み方すら分からない方も多かったんですけどね。

さらに、総務省が主催する『ワーケーション・コレクティブインパクト』では全国から6地域が選出され、他の5地域は「都道府県」だったにも関わらず、**唯一、市区町村として「日向市」が選ばれた**のです。

新玉様：「企業誘致」については、成果はまだまだこれからですが、すでにシェアオフィスに登録するという事例も出てきているので、形になりつつある感じです。



1年目には戸惑っていた地元の事業者様が「**こういうのを体験してもらったら喜んでもらえるのでは**」と**アイデアを出してくださる**など、多くの人の意識が変わったと実感されたようです。

新玉様：座組みとしてはパーソルの皆さんが『仕事』という点に重きを置いたうえで、そこにエッセンスとして交流などの『デザイン』を上手に織り交ぜていただきました。それによって『パーソル×日向市』という認知が進んでいる、というのはすごく感じられるようになりましたね。

そして2023年3月、パーソルワークスデザインは宮崎県日向市様と**ワーケーション共創に向けた包括連携協定を締結**しました。ワーケーションを通じた“共創”の取り組み推進としては日本初となります。

新玉様：今回は節目として『包括連携協定』というひとつの形にさせていただきましたが、この関係性はこれからも続いていくんだろうと思いますし、今後もますます地方創生のために活躍させていただきたいと思っています。

パーソルワークスデザイン株式会社 プロジェクト担当者のコメント



日向市のワーケーション事業に携わって約3年間、新玉様をはじめ日向市の皆さまのお力添えもあり、ゴールできたと思っています。今後も、ワーケーションによって「はたらく場所を自由に選択できる」だけでなく、「共創によって新しい価値を生み出す」取り組みを進めてまいります。そうして、日本全国からみても先進的な成功事例にしていきたいと考えております。

パーソルワークスデザイン株式会社

本社 | 〒171-0014 東京都豊島区池袋2-65-18 池袋WESTビル
電話 | 03-6907-4481 (受付時間 平日 9:00~18:00)

会社ホームページは
こちらから

